



南会津 のうりんニュース

平成16年8月 (第75号)

今月の写真：「田島祇園祭」(田島町)

国指定重要無形文化財である田島祇園祭は、今年も7月22～24日にかけて盛大にとり行われました。

お祭りの大きな見せ場の一つである「七行器行列」は、袴姿の男性や花嫁姿の女性が古式ゆかしく歩く、大変美しい行列です。

今回は行列前のリラックスした雰囲気カメラに収めてみました。

今月の内容：

- 今月のトピックス
 - ・大雨の被害について
 - ・「会津のお弁当」作っています。
- ほか
- 私と南会津
 - 東京都豊島区 酒井計三さん
- この人を知りたい
 - 館岩村 小林いずみさん
- 今月のコラム
 - 「わたすげとひめさゆり」

平成16年8月10日発行 福島県南会津農林事務所

今月のトピックス

大雨の被害について



(上)下郷町入申倉 (いりさるくら) 地区の被災状況
(下)浸水したトマトハウスを調査 (只見町)

南会津地方は、7月13日～18日に梅雨前線による集中豪雨に見舞われました。この大雨により、南会津地方では、只見町・南郷村・伊南村など主に西部地区において水稻やトマト、花き等の農作物、農業施設や林道等が災害を受け、南会津地方全体で約9億円の被害額となりました。特に只見町では、一日の降水量が325mmにも達するなど、日雨量がここ25年間で最大となり、トマトハウスに70cmも浸水し、ポンプによって早急に強制排水しなければならない場所もでるな

ど、南会津地方の中で最も大きな被害を受けました。このため7月23日には、南会津地方でより大きな被害があった4箇所を県(穴澤農村整備領域総括参事、大関森林林業領域総括参事ほか)として現地調査し、今後の対策を検討しました。

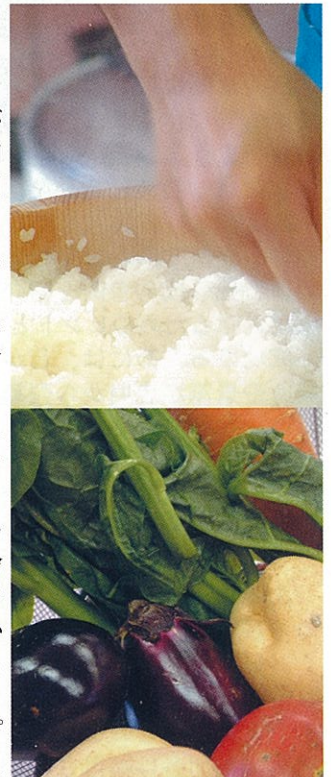
被害に見舞われた農家の方々に対し、お見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧が望まれます。

(地域農林企画室)

「会津のお弁当」作っています。

駅弁などの「お弁当」が今ブームなのをご存知でしょうか？1食2,000円以上もするような高級なものが、旅行客に飛ぶように売られているそうです。もちろん、そういったお弁当はただ高いだけではありません。素材や調理、器にもこだわった、見た目にも味にも大変満足できるものなのです。

会津若松市にある、あいづふるさと市町村圏協議会では、今年、南会津地方を含めた会津全域にある豊かな食材を活用した、おいしいお弁当を提案しようと「まるごと会津のお弁当プロデュース事業」を展開し(2ページに続く)



会津の豊かな食材で・・・



こんなお弁当ができるかも？

(1ページから続く)

ています。
現在メニュー選びの真っ最中で、7月22日には下郷町の下郷ふれあいセンターで、メニュー候補の料理試食会が行われました。

会津全域の食生活改善推進員などの皆さんが考案し、持ち寄った50種類以上のメニューのほか、アドバイザーの鈴木真也さん(割烹ふくまん)と

朝倉玲子さん(アサクラ)が当日作られたメニューが並び、試食をしながら意見を出し合いました。参加した皆さんは、こんなにも多くのメニューを作ることができる会津の食材の豊かさに、改めて驚き、感心していました。

今後はさらにメニューの絞込みやパッケージのデザインなどを行い、10月には会津オリジナルのお弁当として発表する予定とのことです。(地域農林企画室)

元気が出る直売所づくり

地域活性化と農家所得向上の手段として、農産物直売所が注目されていますが、その成功の秘訣を学ぼうと、7月21日「農産物直売所を活かした地域興しセミナー」を下郷ふれあいセンターで開催しました。

直売活動に取り組んでいる方や、これから取り組もうとしている多くの農業者が参加した中、「元気」を届ける支援活動を得意とし、福島県地域興しマイスターとして活躍されている小柳剛照氏を迎え、「農産物直売所を活かして元気の出る農村づくり」と題して、各地の成功事例を紹介しながら、農産物直売所を成功させるためのヒントとなる講演をいただきました。

成功するためには、昔からの誤った常識(直売所の場所や景気が悪いから売れない、農業には将来性が乏しい、など)にとらわることなく、視点を変えてみる事が大切であり、そのためには単に野菜を売るだけでなく、加工品作り、農業体験や飲食業など他業種との組み合わせなどを考えることも重要であるとのことです。

このほか、消費者は物を買うだけでなく「満足を買う」のだから、売る側は主役である農産物売るだけでなく、見た目(店の雰囲気など)や情報(農産物に関する情報など)などの脇役も一緒に売ることも成功のポイントであるとのことでした。具体的でわかりやすい講演に参加者は納得されたようで今後の直売所運営に大変参考になったセミナーでした。(農業普及部)



森林と水の学習会開催

南 会津の豊かな自然は、我々にも数々の恵みをもたらしてくれます。中でもイワナやヤマメは清流に生息し、多くの人々に楽しみを与えてくれます。

これらイワナやヤマメの稚魚の放流が、去る6月25日と7月15日に田島町の荒海小学校の4年生と南郷村の南郷第二小学校の1~3年生によりそれぞれ行われました。

この放流会は南会津森林土木協会の主催によるもので、釣り人の増加や自然環境の変化などによりイワナ、ヤマメが減少し、さらに治山・砂防工事のダムなどによっても魚の生息に影響があることから、平成3年に初めて開催されました。平成10年からは地元小学生を対象として森林の学習会を兼ねて実施し、今回で14回目の開催になりました。

当日はまず、南会津農林事務所の職員が講師となつて、清流の川岸において放流の前に森林の働きやキノコの話をしました。生徒たちは集中して聞いていました。いよいよ放流になるとみんな子供らしく張り切って、バケツ何杯分ものイワナを放流しました。

このイベントは、自然に恵まれた南会津ならではの行事で、子供達には思い出に残るものであったと思われます。学校側からも好評で、出来るだけ多くの学校に体験してもらうため、毎年、町村や学校を変えて実施しているとのことです。(森林林業部)



農業集落排水処理施設の見学会

只見町の明和地区で、7月15日に農業集落排水処理施設(いわゆる「下水処理場」)の見学会を開催しました。

見学会は、只見町明和小学校の4年生15名が対象でしたが、地元の人たちも噂を聞きつけ、13名の方々が飛び入りで小学生と一緒に見学会に参加しました。

見学会では、パネルを用いた管路工事の説明や施設内の見学のほか、顕微鏡で微生物の動き等を実際に目で見ることによって、各家庭から排出される汚水がどういった経路で施設まで到達し、きれいな水となって川に流れるのかという、浄化の一連の過程を学びました。

また、施設に愛着を感じてもらえるよう、構内の一角でコンクリートの上に生徒と担任の先生、校長先生の計17名が手形づくりを行いました。この見学会をきっかけに、いつまでも美しい「水の郷只見町」を守り続けていきたいですね。

(農村整備部)



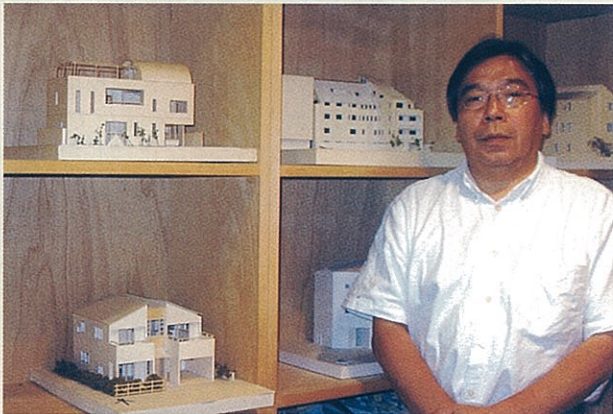
体験学習

東京都豊島区 酒井計三さん
(南郷村鶴巣出身)

小学生の頃から、田植え、稲刈り、草むしり等、家の手伝いを頼まれる度に『どうしたらうまく逃げられるか?』とばかり考え、親からは“やねっぼ”と呼ばれ、いやいやながらも手伝いしておりました。

そんな私が、2年前に娘の通う小学校のPTA会長を引き受けることになり、校長先生から体験学習の時間で「田植え」、「稲刈り」を子ども達に指導してほしいとお願いされましたが、故郷から遠ざかって久しい私には自信がありませんでした。

それでも5年生の子ども、保護者のお母さん、先生たちで茨城県の借り受けた田んぼ（五畝程度）に向かいました。経験者は私一人ですのでどうなる事



【上写真】

酒井さんは現在、東京都豊島区で建築事務所「ケイ・サカイ建築事務所」を営んでおられます。



か不安はありましたが、いざ始まると地元の農家の方も応援に加わってくれ、最初はぬかるみを怖がっていた子ども達はもちろんですが、田んぼに入るのも初めてのお母さん共々泥まみれになり奇声を上げながらも、なんとか田植えができました。

秋には稲刈りに行き、鎌を持たせたのでけがを心配しながらも無事刈り取りもできたのですが束ねる事は小学生にはちょっと難しかったようです。

刈り取った稲を学校に持ち帰り校庭で乾燥させ“せんばこぎ”を近くの小学校から借りて脱穀をし、精米は近くのお米屋さんに協力していただき見事なコシヒカリのできあがりです。学校では得ることのできない体験を通して手にしたお米は子ども達にとってなによりのごちそうでした。

脱穀したワラで“縄より”を指導し完成した手製の縄で縄跳びもできました。

小さい頃は、いやいや手伝ってましたが、親からの教えるを忘れてはいなかったようです。子ども達とも楽しい時間を過ごす事ができ改めて親、そして故郷に感謝しています。

飽食の時代にある都会の子ども達が“米作り”の体験を通し、食べ物を大事にする気持ち、農家の方への感謝の気持ち、が芽生えていると信じております。

この人を知りたい

楽しいから
がんばって
います。

(舘岩村 小林いずみさん)



今回は舘岩村の元気いっぱいの女性をご紹介します。

その女性は小林いずみさん。岩手県盛岡市出身で、NPO法人「地球緑化センター」が派遣する「緑のふるさと協力隊員」として、今年の4月から1年間、舘岩村に派遣されています。

この「緑のふるさと協力隊員」とは、全国の中山間地域の市町村の活性化のため、その市町村に暮らしながら、外部の人から見た目を活かしつつ、イベントや特産品作りの支援などを行うものです。今年で第11期になり、福島県には現在小林さんを含めて

(4ページに続く)

(3ページから続く)

4名の隊員が4町村に派遣されています。

小林さんは現在、村の農業公社に所属し、各種イベントや村のそば処「曲家」を手伝っているほか、教育旅行で来る中学校の生徒たちなどへの尾瀬のガイドもつとめています。また、自分で焼いた「南部せんべい」を食べながら、近所の人たちとお話をするのも楽しみなのだそうです。

この協力隊員の制度を知ったのは新聞での募集記

事を見たのがきっかけでしたが、受け入れる全国の多くの市町村の中から館岩村を選んだのは、「山登り」と「そば」に興味があったからで、館岩村の紹介を読んだ時に「これだ!」と思ったそうです。

農産物加工や特産品作りのお手伝いもしてみたいという小林さんです。これからもお国言葉の岩手弁で、明るく活躍されることでしょう。

(地域農林企画室)

今月のコラム

わたすげとひめさゆり

自然豊かな南会津には四季折々に心をなごませてくれる情景があります。春の柔らかい新緑、夏の突き抜けるほど澄み切った青空、秋の燃えるような鮮やかな紅葉、晴れた冬の真っ白い雪景色。いずれをとっても南会津の豊かな自然を満喫させられます。

6月に田島町にある駒止湿原と南郷村にある高清水自然公園のひめさゆり群生地を訪ねる機会がありました。

田島町から駒止湿原までは、旧駒止峠を通過して20分程度です。旧国道はカーブが多く、道幅も狭く、

車の運転には注意がいらいます。私が湿原を訪れた時は、ちょうどわたすげの開花時期でした。一面の真っ白なわたすげが静かに見事に咲いていました。周囲の橙色のレンゲツツジが景観を引き立てています。湿原の中は社会の騒音から隔離され、人工的な音は全く無く、小鳥のさえずりも心地

よく心に響き、自然の中でまさに至福のひとときを過ごすことが出来ます。

ひめさゆり群生地は初めて訪れました。田島町からは国道289号線、同401号線を通じて1時間弱で着きます。群生地は数百メートル四方程度の面積です。見頃は例年6月中旬頃とのことですが今年は

遅れ気味とのことでした。中央の平坦部と北斜面、南斜面があり、開花時期が若干異なるとのことです。南斜面は開花が早く、北斜面は開花が遅いとのことです。私が訪れた時は、南斜面は7~8割程度咲いていましたが、北斜面は半分以下程度の開花でした。それでも、一面に咲くピンクの可憐な花は心を華やかにしてくれました。その色合いは「さゆり」の響きに合っただけでもそれらしいという名前であると感動しました。

群生地は木道が整備されています。また、要所要所に、案内人(監視員?)が、数名いて、質問をすると親切、丁寧に教えてくれますので、気持ちよく心ゆくまで鑑賞に浸ることが出来ます。

南会津にはそのほかにも、たくさんの自然があります。この自然は、まさに財産であります。近年自然保護、環境保全のことが重視されておりますが、私たちの仕事も環境に配慮した工事を実施するなど、自然との調和を保った事業実施に努めてまいりたいと思っております。

(農村整備部長 遠藤邦夫)



お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

電話 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.hukushima.jp

ホームページ <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>



みなさんのご意見・ご感想を
お寄せください。

R100

PRINTED WITH
SOY INK™

この広報紙は古紙配合率100%再生紙と
SOY(大豆油)インキを使用しています。